

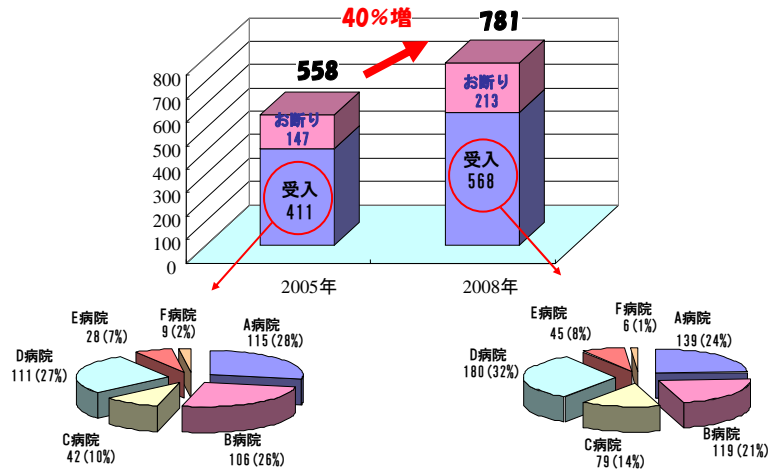
福岡都市圏周産期医療施設の病床数

二次医療圏	出生数 (2007年)	うち 2500未満	周産期施設	産科病床数	うちMFICU	新生児病床数	うちNICU	NICU 必要数 ^{*1}
福岡・糸島	14,679	1,499	A病院	25	7	29	9	44
			B病院	24	6	31	12	
			C病院	27 ^{*2}	0	15	6	
			E病院	37 ^{*2}	0	7	0	
			F病院	50 ^{*2}	0	2	0	
			G病院	-	-	19	9	
小計			163	13	103	36		
粕屋	3,141	313	なし	-	-	-	-	9
宗像	1,170	124	なし	-	-	-	-	3
筑紫	4,576	452	D病院	25 ^{*2}	0	27	15	14
計	23,566	2,388		188	13	130	51	70

*1 1,000出生あたり3床。厚生労働科学研究「NICUの必要病床数の算定に関する研究」(平成19年度、主任研究者 藤村正哲)

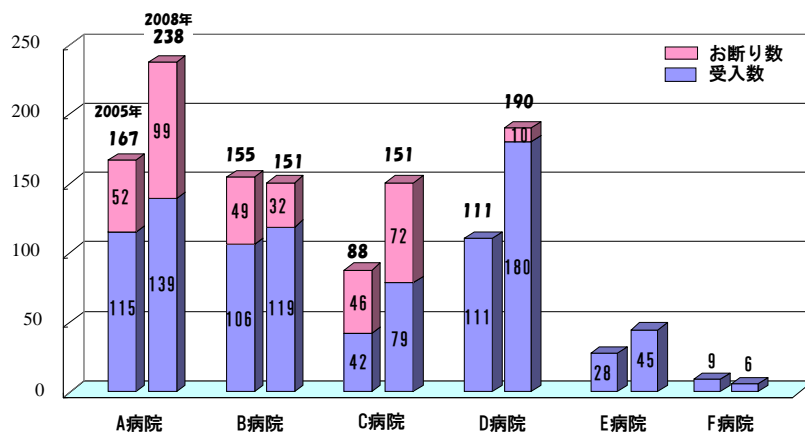
*2 産科固有病床はなく、産婦人科病床数を示す。

福岡都市圏における母体搬送依頼件数



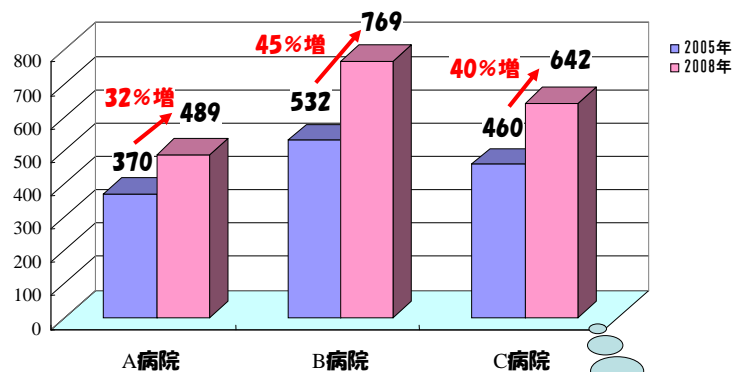
母体搬送依頼件数は増加傾向にあり、依頼総数の約3割は受入をお断りせざるを得ない状況である。
 受入先施設はA病院とB病院が各々全体の約1/4を占めており、両総合周産期医療センターに過剰の負担を強いている。

福岡都市圏における母体搬送依頼件数 (施設別)



周産期ホットラインネットワークの運用開始(2007年10月)に伴い、A病院、C病院、D病院における母体搬送依頼件数が著増している。
 受入件数については、C病院、D病院、E病院で著増し、2次医療施設への大きな負担となっている。

周産期母子医療センターにおける分娩数の推移 (福岡・糸島医療圏)

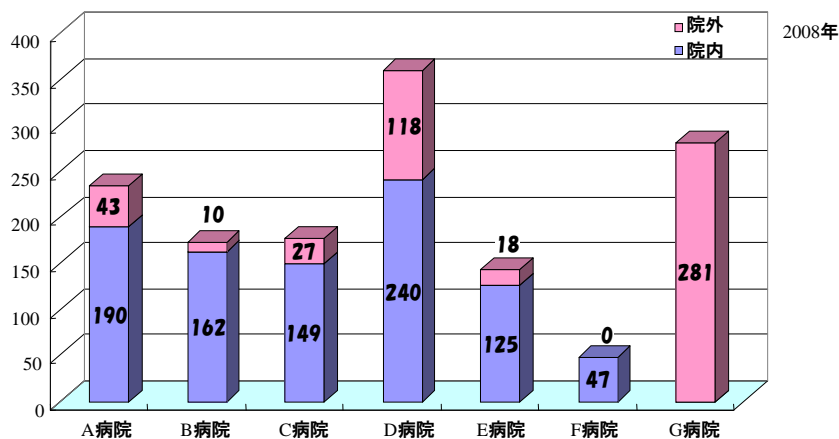


参考

	出生数		
	2005年	2007年	増加率 (%)
全国	1,062,530	1,089,818	2.6
福岡県	43,421	46,393	6.8
福岡都市圏	21,520	23,566	9.5
福岡・糸島医療圏	13,268	14,679	10.6

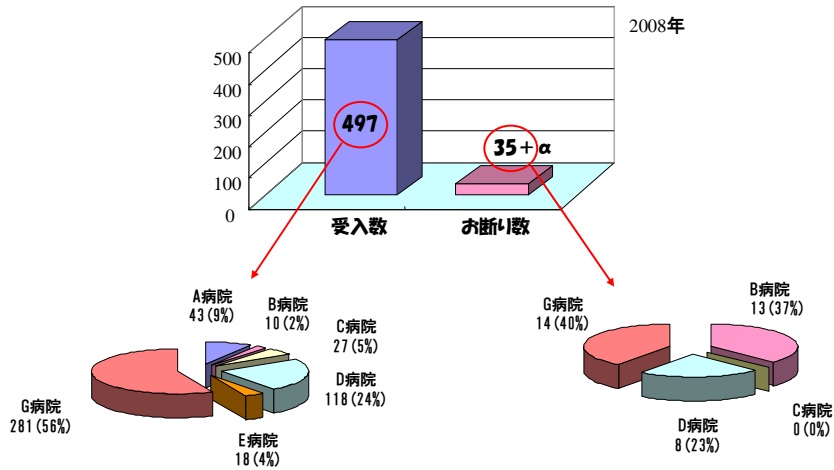
周産期センターでの分娩が激増し、過剰な負担を強いている。

福岡都市圏における新生児入院件数



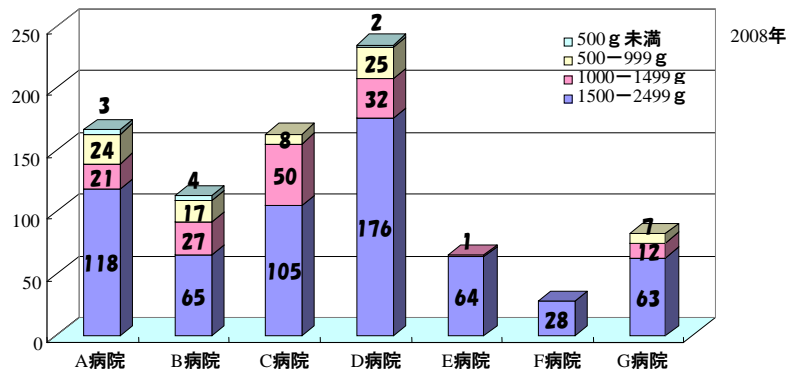
新生児入院総数は年間1410例。うち新生児搬送数は497例で、入院総数の35.2%を占める。

福岡都市圏における新生児搬送依頼件数



新生児搬送依頼数は年間532例で、依頼総数の1割近くは受入をお断りせざるを得ない状況である。
 受入先施設は小児専門病院であるG病院が受入総数の半数以上を占めるが、周産期母子医療センターも受入総数の約40%を占め、大きな負担となっている。

低出生体重児の入院件数

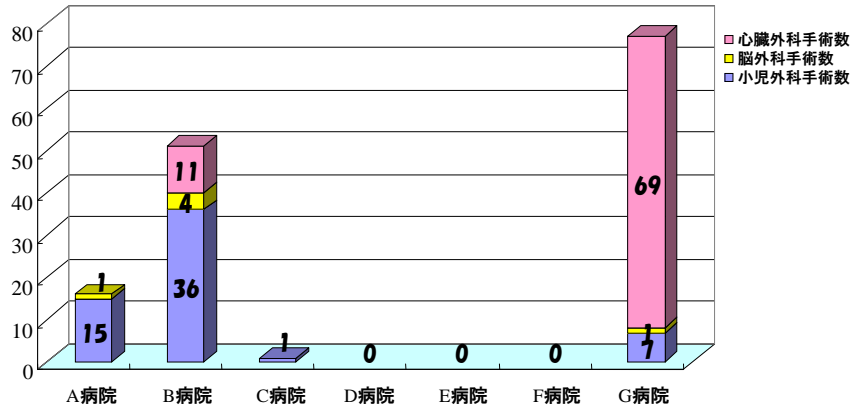


福岡県(市) 体重別出生数 (2008年)

	福岡県	福岡市	7施設
1500-2499g	4,363	1,293	619
1000-1499g	236	67	143
500-999g	140	34	81
500g未満	14	3	9

2500g未満の低出生体重児の入院総数は852例。うち1000g未満の入院総数は90例で、福岡県における出生数の約2/3を占める。1000g未満の新生児はNICU長期入院が必要であり、NICU病床不足の一因となっている。

新生児外科手術件数



新生児外科手術総数は145例で、うち80例(55%)は心臓外科手術が占める。新生児外科手術症例についてはA病院、B病院の両総合周産期母子医療センターにG病院を加えた3施設で対応し、福岡県内外より症例を集積している。なかでも心臓外科手術症例のうち86%はG病院で管理している。

福岡都市圏における周産期医療体制の現状

- 母体搬送依頼件数は増加傾向にあり、年間781件に上る。依頼総数の約30%にあたる213件は受入をお断りせざるを得ない状況である。
- 受入先施設はA病院、B病院、C病院、D病院の周産期母子医療センターが全体の90%を占める。最近の傾向は、C病院、D病院、E病院といった2次病院の受入数が激増した。
- これらの施設では分娩数が激増し、加えて婦人科救急の受入も担っている。
- 新生児搬送依頼数は年間532例で、依頼総数の1割近くは受入をお断りせざるを得ない状況である。
- 受入先施設は小児専門病院であるG病院が受入総数の半数以上を占めるが、周産期母子医療センターも受入総数の約40%を受け入れている。
- 超低出生体重児や新生児外科疾患は、福岡県内外より福岡都市圏に集中している。これらハイリスク新生児は長期入院が必要であり、NICU病床不足の一因となっている。

福岡都市圏における周産期医療体制は逆ピラミッド型を形成し、総合周産期母子医療センターに加え、2次病院も受入をお断りせざるを得ないほど過剰な負担を強いており、医療崩壊の危機である。

福岡都市圏周産期医療施設診療実態調査（2009年7月実施）

施設名	A	B	C	D	E	F	L	G	小計
総合・地域周産期センター	総合周産期	総合周産期	地域周産期	地域周産期					
産科病床									
産科病床数	25	24	-	-	-	-	-	-	49
うちMFICU	7	6	-	-	-	-	-	-	13
産婦人科病床として			27	25	37	50	30	-	169
分娩症例（2008年）									
年間分娩数	489	769	642	460	559	341	164	-	3,424
うち早産	142	212	122	212	56	15	12	-	771
うち32週未満	35	50	27	55	3	0	0	-	170
妊娠分娩合併症（2008年）									
母体合併症	381	526	489	243	385*3	11	-	-	2,035
胎児合併症	110	140	10	数例	11	5	-	-	276
合併症なし	46	46	153		167	325	-	-	737
母体搬送（2008年）									
受入数	139	119	79	180	45	6	3	-	571
お断り数	99	32	72	10	不明	1	数例	-	214
医師数									
常勤（専任）	22*1（4）	32*2（11）	7（0）	4（0）	6（0）	7（0）	6（0）	-	
レジデント（専任）	研修医（4）	研修医（4）	3（0）	0	2（0）	1（0）	3（0）	-	
計	22（8）	32（15）	10（0）	4（0）	8（0）	8（0）	9（0）	-	
当直体制									
当直医師数（/日）	2	2+1（研修医）	1	1	1	1	0（待機2）	-	
当直回数（/月）	3~4	2.3	3	5	3~4	4	0（待機6-10）	-	
ドクターカー									
所有の有無	あり	なし	なし	あり	なし	なし	あり	-	
利用回数（年間）	10			0			10未満		
新生児病床									
新生児病床数	29	31	15	27	7	2	0	19	130
うちNICU	9	12	6	15	0	0	0	9	51
入院症例（2008年）									
年間入院数	233	172	176	358	143	47	27	281	1,437
体重別内訳（2008年）									
1500-2499g	118	65	105	176	64	28	2	63	621
1000-1499g	21	27	50	32	1	0	0	12	143
500-999g	24	17	8	25	0	0	0	7	81
500g未満	3	4	0	2	0	0	0	0	9
週数別内訳（2008年）									
37週未満	144	118	122	209	46	18	1	48	706
34週未満	73	67	63	132	1	0	0	9	345
28週未満	23	17	5	25	0	0	0	6	76
26週未満	11	7	1	20	0	0	0	1	40
24週未満	2	0	0	4	0	0	0	1	7
新生児外科手術（2008年）									
新生児外科手術数	15	36	1	0	0	0	0	7	59
脳外科手術数	1	4	0	0	0	0	0	1	6
心臓外科手術数	0	11	0	0	0	0	0	69	80
新生児搬送（2008年）									
受入数	43	10	27	118	18	0	0	281	497
お断り数	不明	13	0	8	-	0	0	14	35
医師数									
常勤（専任）	5（5）*4	6（6）*4	6（2）	7（0）	6（0）	2（0）	2（0）	4（4）	
レジデント（専任）	1（1）	1（0）	0（0）	0（0）	0（0）	0（0）	0（0）	3（3）	
計	6（6）	7（6）	6（2）	7（0）	6（0）	2（0）	2（0）	7（7）	
当直体制									
当直医師数（/日）	1	1	1	1	0	0	0	1	
当直勤務回数（/月）	3~4	4~6	4~5	4~5	0	0	0	4~5	
日直勤務回数（/月）	1~2	2	2	1~2	0	0	0	1~2	
ドクターカー									
所有の有無	あり	なし	なし	あり	なし	なし	なし	なし	
利用回数（年間）	9			118					
回答者（敬称略）									
産科（産婦人科）									
新生児科（小児科）									

*1 専任1、兼任21

*2 助教以上18、医員14

*3 多胎、帝王切開、吸引分娩、弛緩出血も含む

*4 専任のみ